

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 大腸腫瘍診断に関する AI 構築

研究の目的

社会的に人工知能の応用が広がっています。深層学習の登場によって急速に進んだ人工知能技術は、消化器内視鏡分野において特に診断支援ソフトウェアの研究開発が盛んです。精度の高い内視鏡検査のためには、医師の技能向上が必要です。以前より、内視鏡医の技能向上には相応の経験が必要と考えられてきましたが、近年は人工知能による診断支援が大きく注目されています。

人工知能技術を用いて設計されたソフトウェアによる診断支援はコンピューター支援診断と総称されます。大腸腫瘍の内視鏡診断の役割は、大きく“指摘”と“診断”の2段階があり、コンピューター支援診断は指摘用のコンピューター支援指摘診断と診断用のコンピューター支援質的診断に分けられます。コンピューター支援指摘診断は内視鏡検査中にリアルタイムで大腸腫瘍を指摘することができるため、モニターに表示されても見落とされる可能性のある大腸腫瘍に医師の注意を引くことが期待されています。すでにコンピューター支援指摘診断の支援によって医師の大腸腫瘍の指摘能が高くなることが明らかとなりました。一方コンピューター支援質的診断は病変の浸潤度を判断して、治療方法を検討する際の補助となることが期待されています。しかし現状のコンピューター支援質的診断は、色素染色した病変を超拡大内視鏡で観察する必要があるため、一般にはほとんど普及していません。

以前より弘前大学医学部消化器血液内科学講座と医療情報部は協力して、大腸腫瘍診断の機械学習に関わる研究を進めてきました。本研究では、一般診療で普及している狭域帯内視鏡観察の画像から大腸腫瘍を自動抽出して腫瘍の進行度診断を行うコンピューター支援質的診断を構築します。

研究実施期間： 実施許可日～2026年3月31日

対象となる方： 2019年1月1日から2023年12月31日に当院で下部消化管内視鏡検査を受けて大腸腫瘍と診断された後に、切除治療された方

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

当院のカルテに記録されている情報のうち、内視鏡検査画像と病理診断(病変の組織型と浸潤度)について、標記研究のために利用します。

具体的には、内視鏡画像とその病理診断を機械学習した大腸腫瘍診断の新しいAIを構築したいと思います。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して(これを匿名化といいます)、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	弘前大学大学院医学研究科地域医療学講座 菊池英純 電話 0172-39-5053、FAX0172-39-5946
-------	---